

環境報告書 2 0 1 6

株木建設株式会社



株木建設環境報告書

1. ご挨拶	1
2. 株木建設株式会社 行動憲章	1
3. 品質・環境方針	2
4. 事業の概要	2
・ 売上高・受注高の推移 ・ 2015 年度 完成工事(事業別、官・民別)比率	
5. 環境目的・目標	3
6. 環境マネジメントシステムの状況	3
・ ISO14001 認証取得状況 ・ 外部審査 ・ 内部環境監査 ・ 環境マネジメント組織と運用体制	
7. 環境汚染予防・環境保全活動の取組み	4
・ 環境パトロールの実施状況 ・ 工事検討会実施状況 ・ 施工体験発表大会	
8. コミュニケーション・社会貢献活動	5
・ 様々な取組み事例	
9. マテリアルフロー、環境パフォーマンス	6
・ 電力使用量、コピー用紙購入量 ・ CO2削減活動実施率、事務用品グリーン調達率 ・ 廃棄物排出量、リサイクル率	
10. 自然環境、住環境保全、地球温暖化防止の取組み	7
11. グループ企業の環境への取組み	8
12. 当社グループにおける環境負荷低減技術の開発・取組み例	9
・ バイオガス化処理システム	
13. KCS(カブキ・コンストラクション・システム)改善活動	10
14. 環境報告書作成・発行	11

1. ご挨拶

東日本大震災から6年が経過しました。昨年4月に熊本地震が発生し、日本は常日頃から地震に対する心構えと備えが必要であることを改めて思い知らされました。

この二つの大震災を機に、今後予想される首都直下や東海・東南海・南海などの巨大地震、そして異常気象による猛烈な台風や竜巻、集中豪雨など自然災害の発生に備えた、防災・減災対策の重要性が更に増大し、それに対応すべく国土強靱化が進められています。

当社は建設業者として、これらの要求に応えられるよう日々研鑽し、人々の安全・安心の確保に貢献出来るよう精進するとともに、発生時には速やかな出動が可能となるよう体制を整えて参ります。

我国では、世界に先がけて環境負荷が少ない再生可能エネルギーへのシフトが進みつつあります。今後さらに、これまでの経済優先の社会システムやライフスタイルの在り方をもう一度見直し、資源やエネルギーの循環型社会の形成を目指して、適正消費、最小廃棄物の社会を目指し、転換していく必要があります。

当社は環境に配慮した施工を標榜し、「TPS(トヨタ生産方式)」を建設業にアレンジした独自の「KCS(カブキ・コンストラクション・システム)改善活動」を推進しています。

この活動は、環境負荷低減を促進し、より品質の高い施工を目指し社員一人一人が自主的に知恵を絞り工夫を加え、改善活動を継続的に実施していく取り組みであり、物づくりと自然を調和させ、かけがえのない地球環境を次世代に受け渡していく一助となると確信しています。

さらに、当社を中核としたグループ企業の一環としての大きな柱とし

て、2012年7月からバイオプラントの本格運用を開始し、地域で発生した食品廃棄物をバイオマス資源として循環(食品廃棄物をメタン発酵させバイオガスを回収し、隣接エコプラントの燃料として使用し、同時に堆肥を生産)させています。

これからも、未来に向け「循環型社会構築」を目指し、地域社会の環境保全に貢献し『環境の環』を広げ、人々の生活を支えるグループ企業でありたいと考えています。



2017年4月

代表取締役社長 株 木 雅 浩

2. 株木建設株式会社 行動憲章

1. 建設にかかわる広範なニーズに、技術開発、良質で安全な企画・設計・施工で対応して顧客満足を得、そして社会資本整備に貢献する。
2. 公正、透明、自由な競争を行う。また、政治、行政、発注機関、取引先等とは健全かつ公正な関係を保つ。
3. 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。
4. 環境問題への取り組みは企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、環境の改善と向上にむけ自主的、積極的に行動する。
5. 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。
6. 社員の人格、個性を尊重し、安全で快適な職場環境づくりを行う。
7. 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決し、不当、不法な要求は一切拒否する。
8. 確固たるコーポレートガバナンスのもと健全、堅実な経営を行う。
9. 役員は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識しつつ率先垂範の上、関係者に周知徹底する。
10. 本憲章に反するような事態が発生したときには、役員自らが問題解決にあたり、原因究明、再発防止に努める。また関係者の権限と責任を明確化し、自らを含めて厳正な処分を行う。

2005年12月制定

3. 品質・環境方針

【品質方針】

卓越した技術と施工により、お客様の要求・期待に応える確かな品質の構築物を提供し、厚い信頼と満足を得る。

1. 迅速で適切な顧客対応を行う。
2. 技術、能力の向上に励む。
3. 経営の質を改善し、顧客満足の向上を目指す。

【環境方針】

環境に配慮した「良い製品」造りと活動を通じて、地球環境の保全と地域環境への貢献を目指して活動する。

1. 設計・施工・オフィスの各活動を通じて、環境負荷を低減する。
2. 事業活動による環境汚染の予防に努める。
3. 実行可能なことから環境保全に取り組む。

【コミットメント】

1. 品質・環境マネジメントシステムの有効性を継続的に改善します。
 2. 顧客要求事項、関連する法的要求事項及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。
- 以上、方針達成のために、活動の目的・目標を定め、計画を作成し展開します。

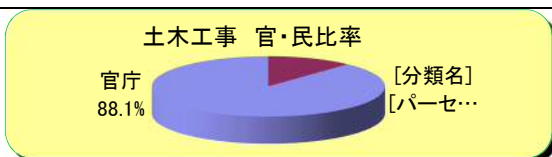
2008 年 6 月制定

社名	株木建設株式会社	本 店	310-0845	茨城県水戸市吉沢町 311-1	029-248-0688
沿革	創業 1921 年 4 月	東京本社	171-8560	東京都豊島区高田 3-31-5	03-3984-4111
資本金	27 億円				
従業員	人数 377 名(2016.5.31 現在)	茨城本店	310-0845	茨城県水戸市吉沢町 311-1	029-248-0222
建設業許可	大臣許可(特-23)第 3 号	東京本店	171-8561	東京都豊島区高田 3-31-5	03-3984-4120
業態	総合建設業	札幌支店	060-0033	北海道札幌市中央区北一条東 1-4-1	011-221-5084
主な事業内容	土木・建築ならびに関連業務	名古屋支店	460-0008	愛知県名古屋市中区栄 4-7-10	052-249-5685
事業年度	5 月決算	大阪支店	531-0072	大阪府大阪市北区豊崎 5-8-17	06-6372-5951
		九州支店	815-0082	福岡県福岡市博多区博多駅南 4-2-10	092-414-1555

4. 事業の概要



2015 年度 完成工事 事業別(建築、土木)・官民別(官庁、民間)



5. 環境目的・目標

2015 年度 全社環境目的・目標・実績					
区分	目 的	目 標		実績	評価
施工	工事施工における「ムダを無くす」ことの「ムダ」を定義し、ムダを発生することなく環境改善に繋げる	①施工不良による手直し、手戻り発生防止 ②環境事故防止のための予防処置を講ずる ※上記における防止・予防処置を 1 項目以上立案		①②合わせた目標値(20 項目/1 工事)に対する平均値(達成率) 土木: (19 項目/1 工事)=90% 建築: (20 項目/1 工事)=100%	○
設計	省エネ設計・技法の充実を図り、顧客提案力を向上する	設計物件に対し対応可能な省エネを省エネ提案リストにて提案する		2 物件: 採用 10/ 提案 11=90.1%	○
オフィス	事務用品のグリーン調達率を向上する オフィス周辺の環境美化を推進する	事務用品のグリーン調達率 95%、環境美化の推進(ゴミ削減 4S: 整理・整頓・清潔・清掃)95%以上		グリーン調達率 93.1% 環境美化率 97.1%	△
2015 年度 本社部署目標・実績					
区分	目 標	管理項目	目標値	実績	評価
土木本部	施工段階におけるCO2 の削減	施工時CO2 削減活動実施率調査シートによるチェック	活動実施率 80%	活動実施率 84.1%	○
建築本部	施工段階におけるCO2 の削減	施工時CO2 削減活動実施率調査シートによるチェック	活動実施率 85%	活動実施率 88.1%	○
設計部	工事検討会時、作業所の環境改善事例、予防処置、技術情報を提供し支援を行う	工事検討会にて支援実施	支援提案 3 件以上／工事検討会	工事検討会 5 件 支援提案 19 件 1 検討会当たり 3.8 件>3 件	○
営業本部	環境関連工事への入札・見積参加	継続のためのデータ収集	年間 30 回以上の参加	91 回参加>30 回	○
管理本部	職員の環境意識向上	個別環境活動の実施	環境活動実施率 95%以上	実施率 68/73=93.2%>90%	○

6. 環境マネジメントシステムの状況

【ISO14001 認証取得状況】

環境マネジメントシステムを全社一括で、2005 年 10 月に認証取得し、2016 年 9 月に第 4 回再認証審査を実施しました。

審 査 登 録 機 関	MSA
認 証 取 得 日	2005/10/20
更 新 日	2016/10/27
有 効 期 限	2018/9/14
登 録 番 号	MSA-ES-476

【外部審査】

2016 年 9 月に審査登録機関(株)マネジメントシステム評価センターによる第 4 回再認証審査を受審しました。
審査結果は、是正要求はなく、充実点 1 件、観察事項 3 件となりました。

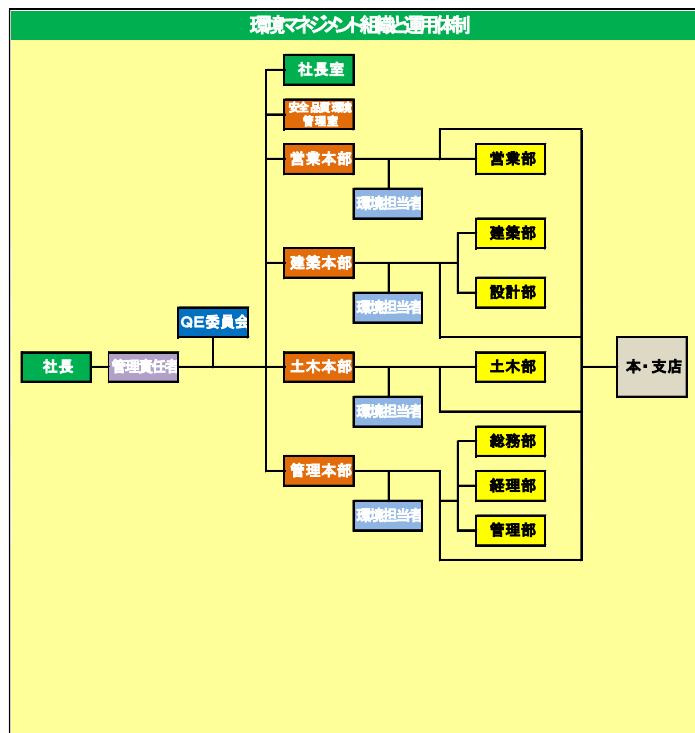
項 目	2015 年度
改善指摘	0 件
改善の機会	0 件
観察事項	3 件
充実点	1 件

【内部環境監査】

環境マネジメントシステムの運用状況を把握し、継続的に改善をはかるため、常設部署及び作業所の内部環境監査を実施しています。

2015 年度は、常設部署の定期監査を 2 回実施(19 部署)し、作業所内部監査は安全/パトロール時に同時に実施することとし、18 作業所に対し実施し、指摘事項はありませんでした。

環境マネジメント組織と運用体制



7. 環境汚染予防・環境保全活動の取組み

地球環境の保全と地域環境への貢献を目指して活動することとした環境方針を受け、工事施工を進める上で、法的及びその他の要求事項等を順守して施工を行っているか安全衛生環境パトロールの実施や一定規模以上の工事に対して、その工事特性・周辺環境に配慮した環境汚染予防・環境保全活動に対する事前工事検討会の実施、更に環境に配慮した創意工夫、活用技術事例の施工体験発表大会を開催し、技術・経験の共有化を図るなど環境汚染予防・環境保全活動の様々な取組みを行っています。

【環境パトロールの実施状況】

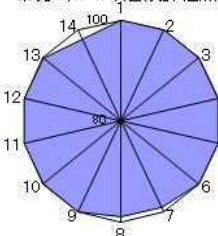
工事施工部署は、法的及びその他の要求事項等を順守し社会的責任を果たすため、各作業所に対して安全衛生環境パトロールを実施し改善を図っています。

作業所は、工事開始前に、法的及びその他の要求事項を間違いなく順守するよう計画し、チェックを実施しながら活動しています。

2015年度は、チェック結果及び事象から評価して、法的及びその他の要求事項を順守していると判断しています。（点検項目）

1.緊急事態の対応準備	6.路面維持・排水状態	11.大気汚染、騒音・振動
2.環境一般	7.埋設物・空中線管理	12.土壌・地下水汚染
3.環境側面	8.建設・副産物管理	13.地盤沈下
4.法規制順守	9.近隣の苦情、要望事項	14.有機溶剤・特化物の使用保管
5.交通対策の措置	10.飛散、粉塵	

環境パトロール項目別評価点



2015 年度実施回数

253 回

法遵守結果

指摘 18 / 総点検 1929=0.93%

【工事検討会実施状況】

現業本部では、一定規模以上（土木3億、建築5億）の工事や特異性のある工事について、その工事特性に応じた適切な施工が出来る様、社長をはじめ工事経験者や設計・技術部門の担当者等を交えて、工事検討会を実施し、環境の他、施工、品質、安全衛生とあらゆる角度から知恵を出しあい、予防処置を検討し改善をはかっています。

また、各地区においても、本部工事検討会の対象外工事についても、同様に検討会を実施しています。

◆本部工事検討会実施回数◆

工事区分	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
建築工事	5 件	4 件	11 件	9 件	9 件
土木工事	2 件	4 件	14 件	11 件	11 件
合 計	7 件	8 件	25 件	20 件	20 件



【施工体験発表大会】

当社では、2年に一度、完成工事の中から優れた施工を選定し、施工体験発表大会を開催しています。

これは、全社員が現場で活用された技術や経験を共有すると共に、各人のプレゼンテーション能力向上を目指しているものです。

平成27年度施工体験発表大会では、それぞれの異なる施工において活用した技術、創意工夫、環境配慮の事例等に関する体験情報が、参加者全員に伝えられました。



・平成 27 年度施工体験発表大会 (2015.11.21)

8. コミュニケーション・社会貢献活動

【様々な取組事例】

【現場の取組み】

建設工事の円滑な施工には地域社会の理解と協力が必要です。株木建設は地域とのコミュニケーションの重要性を深く認識し、地域社会への情報発信を積極的に行うことによって、お互いの理解を深められると考えています。

市民マラソン大会への協賛や現場見学会、様々なイベント等を企画し、地域・地元との交流を通じて、コミュニケーションの推進や地域貢献に努めています。又、地域のボランティア活動、自然環境保全活動に積極的に取組んでいます。

【現場見学会】

特別養護老人ホーム新築工事や橋梁下部工事において、近隣小学校の児童、将来建設業を目指す学生、地元県議会議員等を対象に現場見学会を開催し、工事への理解とコミュニケーションの推進に努めています。



・特別養護老人ホーム新築工事の現場見学会(近隣小学生)



・橋梁下部工事の現場見学会(学生)



・地元県議会議員の現場見学会

【協賛市民マラソン大会への参加】

水戸市のPRと地元経済の活性化を目的に水戸商工会議所青年部などが主催する千波湖畔を駆け抜ける「水戸マラソン」大会に協賛し、当社から多くの社員が参加しています。



・参加者



・マラソン風景

【地元祭典への参加、自治会から感謝状の受領】

地元祭典への仮設トイレの提供協力、工事を進めるに当たって地元要望事項を積極的にくみ取り、ダンプ運行や道路清掃などの地元への活動・配慮が評価され、感謝状を受領しています。



・地元神社祭典への協力



・自治会より感謝状の受領

【地域の環境保全活動】

各地域において地元行政機関が主催・後援する環境保全活動に参加しています。



・仙台塩釜港周辺道路清掃活動



・干潟アオサ清掃活動

【事業所個別のボランティア活動】

茨城本店では、水戸市桜川河川敷、東京本店では、目白駅前の清掃活動を定期的に継続して行っています。



・水戸市桜川河川敷清掃活動



・目白駅前清掃活動

9. マテリアルフロー、環境パフォーマンス

2015年度マテリアルフロー

施工活動

生コンクリート 14.8 千t

鉄筋 9.0 千t

オフィス活動

電力 336 千kw

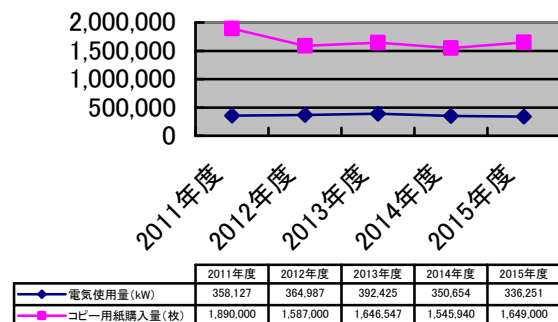
コピー用紙 1,649 千枚

構 築 物

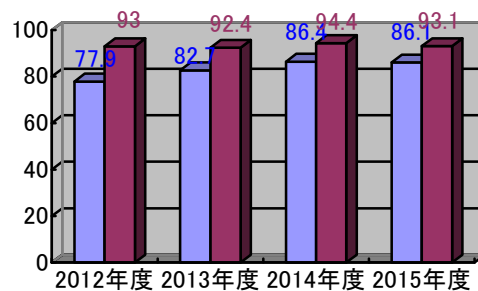
廃棄物 38.2 千t

リサイクル 37.9 千t

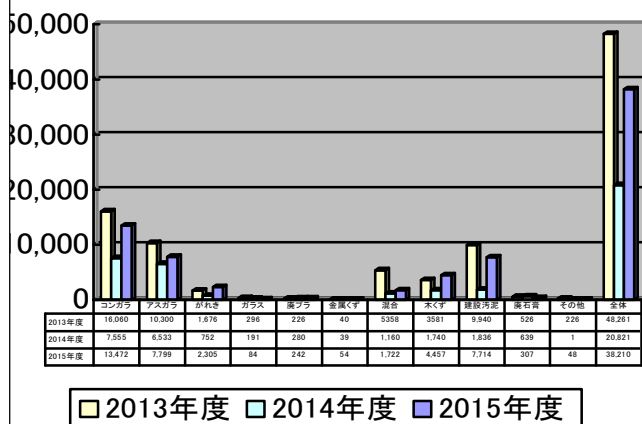
電気使用量(kW) コピー用紙購入量(枚)



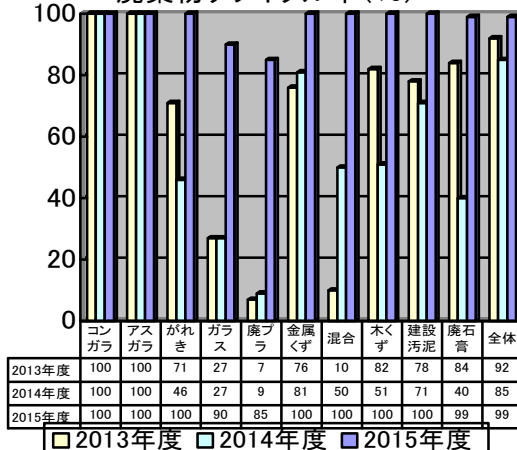
CO2削減活動実施率(%) 事務用品グリーン調達率(%)



廃棄物排出量(トン)



廃棄物リサイクル率(%)



10. 自然環境、住環境保全、地球温暖化防止の取組み

【現場作業に特化し周辺環境に影響を及ぼさない施工】

万が一、生分解性作動油とグリースが水中や土壌に流出しても、自然分解され生態系に影響を与えないサイレントパイラーECOの採用や、アスファルトの舗装面に切り込みを入れる道路カッターなどで発生する汚泥排水を、現場で作業をしながら脱水・再生処理を行う工法を取入れています。



・サイレントパイラーECO



・ウォーターリサイクル工法仕様の
コンクリートカッターの使用

【騒音、粉塵飛散、海上油流出防止】

市街地施工時、近隣住民からの苦情要因となる騒音、粉塵の発生、海上への油流出防止に向けた様々な対策を講じ自然環境、住環境保全の取り組みを行っています。



・防音パネルを設置しての取壊し
作業



・コンクリート粉塵を同時回収する
バキュームブラスト工法



・FDデッキ外周吸着マット設置

【日本野鳥の会の活動をサポート】

当社は、長年にわたり法人特別会員として日本野鳥の会の活動をサポートしており、公益財団法人日本野鳥の会が発行した小冊子「ヒナとの関わり方がわかるハンドブック」に応援企業として当社名が掲載されています。



【地球温暖化防止活動】

施工に使用する発電機・建設用重機や運搬車両からの排気ガスを抑制するための啓蒙活動や、全作業所を対象に施工におけるCO2削減活動に取り組んでいます。

◆実施事項◆

- ・「ストップ・ザ・CO2横断幕」「絵で見る省燃費運転マニュアル」等を作業所へ配付しています。発行：(一社)日本建設業団体連合
- ・「アイドリングストップステッカー」を作成し、作業所へ配布を行い各重機、運搬車両へ貼付、掲示等を行っています。
- ・日建連が主催するCO2削減活動に倣い、全作業所を対象に施工におけるCO2削減活動を環境目標に掲げ、展開しています。

【啓蒙活動】

「ストップ・ザ・CO2横断幕」「アイドリングストップステッカー」を配布し、CO2削減活動を積極的に推進しています。



・ストップ・ザ・CO2横断幕



・当社作成 CO2削減啓蒙ステッカー



【具体的な取組】

当社の啓蒙ステッカーを重機・ダンプに貼付して、省燃費運転を励行したり、ソーラー式回転灯を使用することでCO2の削減に努めています。



・重機・散水車等に貼付されたCO2削減
啓蒙ステッカー

・ソーラー式回転灯

11. グループ企業の環境への取り組み

今、「地球環境問題」が大きくクローズアップされている中、株木建設を中核としたグループ企業では様々な環境負荷低減技術の開発に取り組んで事業を展開しています。

当社における水資源・土壌汚染対策、地球温暖化防止対策を始めとし、グループ企業においても廃棄物の再利用、廃棄物の発生抑制と再生資源の効率的な利用運用を行い「循環型社会」を目指し、地域社会の環境保全に貢献しながら、人々の生活を支えるグループ企業でありたいと常に考えております。

環境保全活動、環境配慮活動を推進します。

- ① 地球温暖化対策 ② 再資源化対策 ③ 有害物質・化学物質対策
④ 循環型社会形成の推進 ⑤ 環境配慮設計の推進 ⑥ 環境保全技術活用の促進



13. KCS(カブキ・コンストラクション・システム)改善活動

【「KCS改善活動を展開」】

◆当社においては、「工程・原価・品質・安全・環境」に関する不適合事例を改善すべく会社内で同じミスを2度と繰り返さないよう、また、トラブルや問題を現場だけで抱え込まないように、マネジメントシステムの中にいくつかの仕掛けを取入れて実施しています。その中の主要な一つが『KCS(カブキ・コンストラクション・システム)』です。

◆KCS(カブキ・コンストラクションシステム)について

当社は、建設業では初めて「トヨタ生産方式(TPS)」による「改善活動」のキックオフを2008年に行い、モデル現場において試行錯誤を繰り返しながら、建設業に適応させた独自の『KCS(カブキ・コンストラクション・システム)』へ変換し、全社へ展開して自社の独自性を発揮すべく鋭意活動を展開しています。

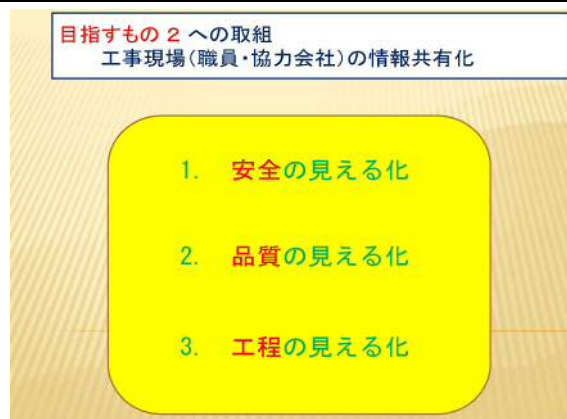
【当社が目指しているKCS改善活動】

目指すもの1

発注者からの必要な情報を営業・設計・土木・建築・管理・支店・工事現場が確実に共有すること。

目指すもの2

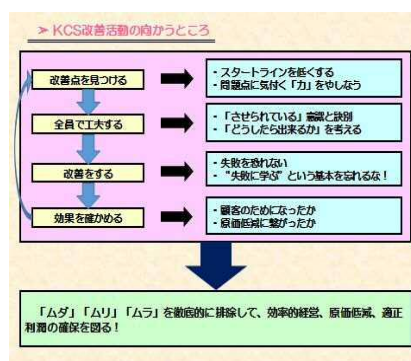
現場の所長・協力会社・作業員が誰であっても、「後工程はお客様」、つまり、後の工程に不具合をまわさないという「TPS」の思想を理解して、その結果、発注者に信頼を得られる優れた施工を継続すること。



【KCS改善活動をさらに一歩前へ】

過去事例も含め、皆が活動に参加し、見える化手法を上手に取り入れ、情報の共有化を図り、改善の効果が、数値などを用いることでより評価しやすい取組みを構築し、KCS改善活動をさらに一歩前へ推し進めています。

【KCS改善活動の向かうところ】



【後工程への思いやり運動ポスター化】



【社内全体で知識・技術の共有化】

KCS 改善活動を積極的に推進し、発注者の評価にかなげ優秀な成績で竣工した土木・建築の作業所の活動事例を施工体験発表大会、フォロー会の開催やイントラネットに掲載し情報の共有化を図っています。



・施工体験発表大会



・フォロー会の開催

14. 環境報告書作成・発行

対象組織	株木建設株式会社
対象期間	2015 年度(一部 2016 年度活動含む)
主な加盟している業界団体	(一社)日本建設業連合会
	(一社)日本埋立浚渫協会
作成部署	安全品質環境管理室
お問合せ先	東京本社 安全品質環境管理室
	TEL:03-3984-4150
	FAX:03-3984-6900
	Mail:webmaster@kabuki.co.jp



株木建設株式会社

<http://www.kabuki.co.jp/>



2017 年 4 月発行